

だいせん

市議会だより

DAISEN CITY COUNCIL NEWS



豪風関と綱引き

10月1日、認定こども園おおたわんぱくランドを、秋田県出身の力士「豪風関」が訪問。豪風関のパワーに、こどもたちも大はしゃぎ!!

大仙市議会
「市政懇談会」特集号

主な内容

CONTENTS

- 第3回定例会、第4回臨時会概要、議決結果 ほか 2~3
- 8人の議員が一般質問 4~7
- 委員会審査のあらまし 8~9
- 先進地に学ぶ、観光推進議員連盟研修報告 10~11
- 市政懇談会報告 12~17
- 12月定例会日程のお知らせ、編集後記ほか 18

第3回定例会

8月28日(木)～9月18日(水) 22日間

「子ども・子育て関連3法公布」に伴う条例を可決

第3回定例会は8月28日に招集され、9月18日までの22日間の会期で行われました。本会議1日目は栗林市長の市政報告のあと、人事案3件、条例案6件、単行案3件、補正予算案3件、平成25年度一般会計歳入歳出決算及び特別会計決算の認定など21件、計36件が上程され、同日に人事案3件を同意と決しました。本会議2日目は5議員、本会議3日目は3議員による一般質問が行われ、市政全般にわたって市当局の見解を質しました。また、本会議3日目に条例案、単行案、補正予算案、決算の認定、請願、陳情が各常任委員会に付託されました。本会議4日目は各常任委員会からの報告を求め、条例案・単行案・補正予算案計12件を原案可決、平成25年度決算2件を認定、残る19件を閉会中の継続審査(11月の決算特別委員会で審査)、意見書案2件を原案可決し、閉会しました。主な内容は次のとおりです。

人事案

▼人権擁護委員の候補者の推薦につき意見を求めることについて(全会一致で同意)

- ◇高島亮弘氏(新谷地)再推薦
- ◇佐藤良幸氏(神宮寺)再推薦
- ◇進藤重幸氏(協和峰吉川)新推薦

条例案

▼大仙市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の制定について(全会一致で可決)

子ども・子育て関連3法の公布に伴い、新たな子ども・子育て支援制度が創設され、平成27年4月に施行される見込みですが、新たに制定さ

れた子ども・子育て支援法に基づき、特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準が条例に委任されたことに伴い、当該基準を条例規定するものです。

▼大仙市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について(全会一致で可決)

子ども・子育て関連3法公布に伴い、新制度に基づく改正児童福祉法の規定により家庭的保育事業等の設備等の基準が条例に委任されたことに伴い、当該基準を条例規定するものです。

▼大仙市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について(全会一致で可決)

子ども・子育て関連3法公布に伴

い、新制度に基づく改正児童福祉法の規定により放課後児童健全育成事業の設備等の基準が条例に委任されたことに伴い、当該基準を条例規定するものです。

単行案

▼平成25年度市立大曲病院事業剰余金の処分について(全会一致で可決)
平成25年度市立大曲病院事業剰余金のうち、160万円を減債積立金、1,400万円を建設改良積立金として処分するものです。

▼平成25年度大仙市上水道事業剰余金の処分について(全会一致で可決)
平成25年度未処分利益剰余金2億874万6,293円のうち、減債積立金及び建設改良積立金としてそれぞれ1億円ずつ処分するものです。

▼平成26年度大仙市スキー場事業特別会計への繰入額の変更について(全会一致で可決)
平成26年度大仙市スキー場事業特別会計に一般会計から繰り入れる額を7,885万5千円以内から8,249万5千円以内に改めるものです。

補正予算

▼平成26年度大仙市一般会計補正予算(第5号)(賛成多数で可決)

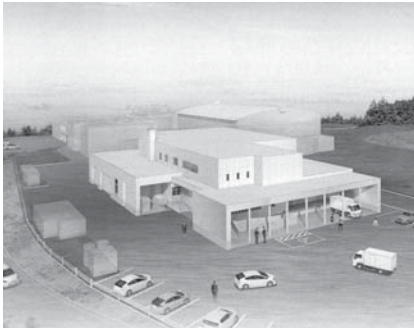
歳入歳出予算の総額に13億408万1千円を追加し、補正後の総額を489億166万8千円とするものです。

主なものとして、消防団員活動服更新に係る経費1,317万円、社会保障・税番号制度既存システム改修に係る経費2,022万9千円、峰山荘移転改築事業のスライド条項(※)適用等による事業費の増額4,505万6千円、農業機械の施設導入に係る県補助事業のメニュー追加による補正770万3千円、奥羽山荘温泉掘削に係る経費7,159万7千円、除雪対策費9億1,425万5千円、直営の消雪施設改修及び道路改良に係る経費3,673万9千円、学校施設天井等落下防止対策工事等に係る経費5,358万4千円、小中学生ウイנטースポーツ推進事業費1,224万6千円などとなっております。

▼平成26年度大仙市学校給食事業特別会計補正予算(第2号)(全会一致で可決)

西部学校給食センター建設工事におけるスライド条項(※)適用による工事請負費の補正2,317万7千円。

▼平成26年度大仙市スキー場事業特別会計補正予算(第2号)(全会一致で可決)



▲スライド条項が適用される西部学校給食センター（完成予想図）

※「スライド条項」
市が発注する建設工事で、特別な要因により工期内に主要な工事材料の日本国内における価格に著しい変動、または予期することのできない特別の事情による工期内の急激な賃金又は物価等の変動によって、請負代金額が不適当となったときに請負代金額の変更を請求できる措置です。

大台スキー場ビジターハウス及びロマンズリフト等修繕に係る経費
364万円。

決 算

▼平成25年度市立大曲病院事業会計決算の認定について（全会一致で認定）

▼平成25年度大仙市上水道事業会計決算の認定について（全会一致で認定）

第4回臨時会

8月5日（火） 1日開

平成26年第4回臨時会が8月5日に1日の会期で招集され、人事案1件、単行案1件、補正予算案1件の計3件上程され、同意、原案可決されました。

▼船岡財産区管理会財産区管理委員の選任について（全会一致で同意）

船岡財産区管理会委員7人のうち、田村勉氏が退任した事に伴い、後任として豊島誠一氏を選任するものです。

▼協和中央地区簡易水道浄水施設整備工事請負契約の締結について（全会一致で可決）

進藤建設・丸茂組特定建設工事共同企業体と2億6,319万6千円で請負契約締結するものです。

▼平成26年度大仙市一般会計補正予算（第4号）（全会一致で可決）

今回は「花火産業構想」推進のための調査経費として補正を行うもので、内訳は仮称「花火伝統文化継承資料館」の現地測量及び基本計画作成・花火生産拠点候補地調査及び事業計画・花火ブランドを生かした観光・商業・農業振興策の強化・拡充に関する基本調査及び事業計画作成です。

平成26年第3回定例会 議決結果

| 番号 | 件名 | 番号 | 件名 |
|---------|---|---------|---|
| 議案第89号 | 人権擁護委員の候補者の推薦につき意見を求めることについて | 議案第123号 | 平成25年度市立大曲病院事業会計決算の認定について |
| 議案第90号 | 人権擁護委員の候補者の推薦につき意見を求めることについて | 議案第124号 | 平成25年度大仙市上水道事業会計決算の認定について |
| 議案第91号 | 人権擁護委員の候補者の推薦につき意見を求めることについて | | 以上 認 定 2件 |
| | 以上 同 意 3件 | 請願第2号 | 協和地域の国道13号の早期4車線化に関する請願書 |
| 議案第92号 | 大仙市民体育館条例の一部を改正する条例の制定について | 請願第3号 | 政府による緊急の過剰米処理を求める請願 |
| 議案第93号 | 大仙市営住宅条例の一部を改正する条例の制定について | 陳情第12号 | 軽度外傷性脳損傷の周知、及び防災人認定基準の改正などを求める陳情 |
| 議案第94号 | 大仙市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の制定について | | 以上 採 択 3件 |
| 議案第95号 | 大仙市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について | 請願第4号 | 農業委員会、企業の農地所有、農協改革など、「農業改革」に関する請願 |
| 議案第96号 | 大仙市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について | | 以上 趣旨採択 1件 |
| 議案第97号 | 大仙市山北民俗資料館設置条例を廃止する条例の制定について | 陳情第13号 | 消費税増税に関する意見書の提出を求める陳情 |
| 議案第98号 | 平成25年度市立大曲病院事業剰余金の処分について | | 以上 不 採 択 1件 |
| 議案第99号 | 平成25年度大仙市上水道事業剰余金の処分について | 意見書案第7号 | 集团的自衛権行使容認など解釈改憲の閣議決定強行に抗議し、その撤回を求める意見書 |
| 議案第100号 | 平成26年度大仙市スキー場事業特別会計への繰入額の変更について | | 以上 否 決 1件 |
| 議案第101号 | 平成26年度大仙市一般会計補正予算（第5号） | 意見書案第8号 | 政府による緊急の過剰米処理を求める意見書 |
| 議案第102号 | 平成26年度大仙市学校給食事業特別会計補正予算（第2号） | 意見書案第9号 | 軽度外傷性脳損傷の周知及び防災人認定基準の改正などを要請する意見書 |
| 議案第103号 | 平成26年度大仙市スキー場事業特別会計補正予算（第2号） | | 以上 原案可決 2件 |
| | 以上 原案可決 12件 | | |

第3回定例会賛否一覧

※議案等について、賛成、反対の双方があった場合のみ、表示しています。

| 議案等名 | 議決結果 | 大地の会 | | | | | | | | | | | 新政会 | | | | だいせんの会 | | | 市民クラブ | 共産党 | 無所属 | | | | | | | | | | |
|--|------|------|-----|------|------|------|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|--------|------|------|-------|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | | 千葉健 | 武田隆 | 大山利吉 | 金谷道男 | 富岡喜芳 | 後藤健 | 佐藤育男 | 石塚 柏 | 大野忠夫 | 高橋幸晴 | 本間輝男 | 鎌田 正 | 橋本五郎 | 小松栄治 | 佐藤清吉 | 渡邊秀俊 | 茂木 隆 | 小山緑郎 | | | | 高橋敏英 | 佐藤芳雄 | 古谷武美 | 児玉裕一 | 橋村 誠 | 佐藤隆盛 | 細谷洋造 | 佐藤文子 | 藤田和久 | 秩父博樹 |
| 議案第101号 平成26年度大仙市一般会計補正予算（第5号） | 原案可決 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 陳情第13号 消費税増税に関する意見書の提出を求める陳情 | 不採択 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 意見書案第7号 集团的自衛権行使容認など解釈改憲の閣議決定強行に抗議し、その撤回を求める意見書 | 否決 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |

議案賛成者は○とし、反対者は●とします。議長は採決に加わらないため、斜線としています。

平成26年第4回臨時会 議決結果

| 番号 | 件名 | 番号 | 件名 |
|--------|------------------------|--------|-------------------------------|
| 議案第86号 | 船岡財産区管理会財産区管理委員の選任について | 議案第87号 | 協和中央地区簡易水道浄水施設整備工事請負契約の締結について |
| | 以上 同 意 1件 | 議案第88号 | 平成26年度大仙市一般会計補正予算（第4号） |
| | | | 以上 原案可決 2件 |



大地の会
石塚 柏 議員

Q 市政の情報を積極的に提供出来ないか

A 情報提供コーナーの設置を検討したい

質問 市では情報公開条例を制定し、プライバシーに係わることを以外は原則公開となっている。予算書・決算書・市政方針・各部の主要な計画の説明書など、市民が関心のある行政情報を積極的に提供すべきではないか。

市長 市として審議会の会議結果や議会への資料提供、ホームページの充実など市民への情報提供に努めてまいりたい。更に本庁1階に情報提供コーナーの設置を検討してまいりたい。

質問 県では行政情報の提供範囲をガイドラインで予め示している。本市ではどの計画、どの行政情報を提供する範囲を各課の判断に任せているようだが、ガイドラインでルール化すべきではないか。

市長 市の行政情報の提供は、市民との協働による町づくりにも必要と考えているので、市の情報提供ガイドラインを策定する。

質問 市では平成27年度をめどに「自治基本条例」を制定しようとしているが、制定の目的は。

市長 これからの市政は市民が主体的に係わる事が重要だが、市政運営の基本的な考えや、市民と協働に関するルールが現在、明文化されていない。公募委員3名を含む21名の委員で条例の基本的な検討を行なっている。

Q 市政の情報を積極的に提供出来ないか

A 情報提供コーナーの設置を検討したい

質問 大仙市を長期的に見れば人口減少の問題、財政の見通しの課題を抱え、市役所の努力だけでは無理があり、市民との協働の取り組みが重要と思うが、市長の見解は。

市長 市民との協働では「大仙市桜守プロジェクト」で住民とテング菓子の駆除作業や講習会、さくらマップの作成などが成功例としてあげられる。今後地域住民との協働の実現に向け、地域協議会や自治会など身近な組織との連携が必要と考える。

質問 「生活道路」「道路側溝」「舗装の補修」「街灯」「交通安全の白線、好評なグリーンベルトの表示」など安心の得られる生活に密着したインフラがあるが、残念ながら大型の公共事業に隠れて遅々として進まないと感じる。予算を付ける市長の考えは。

市長 当市では合併後、大型の事業を実施して、生活に密着した生活道路の維持管理予算が、やや抑えられた形となっていた。今後は、「橋梁長寿命化計画」に基づく予防的な修繕や道路の老朽化対策、街灯をLEDに切り替えるESCO事業、通学路のグリーンベルト設置事業に取り組んでまいりたい。また策定予定の「公共施設等総合管理計画」に基づき高齢化社会に対応した生活環境を推進したいと考える。

一般質問



公明党
秩父博樹 議員

Q 認知症対策について「認知症チェッカー」を導入してはどうか

A 国分寺市の活用状況も参考に、導入に向け検討する

質問 高齢化の加速に伴って認知症が急増しており、今や65歳以上のほぼ7人に1人が認知症と言われている。

認知症も、その前段階である軽度認知障害のうちに対応すれば入院することなく生活できるが、軽度認知障害は、加齢にともなう物忘れと似ているので判別が難しく放置しておく、5年間で約半数が認知症に移行してしまうとの研究報告もある。ましてや、認知症は、誰もが発症する可能性がある疾患なので、軽度の認知症を早期発見することが重要と考える。

対策として、例えば、東京都国分寺市では、認知症予防事業として「こころの体温計」のノウハウを活用した認知症の初期症状スクリーニングシステム「認知症チェッカー」の運用を開始している。

認知症の前段階である「軽度の認知障害」の状態をパソコンで簡単に判定でき、軽度認知障害を判別できるので、当市でも認知症予防のため、取り組むべきと考えるが、いかがか。

老松副市長 「認知症チェッカー」の導入についてだが、「こころの体

温計」のノウハウを活用し、インターネット上で利用できる「認知症チェッカー」については、認知症に対しての市民の関心が高まる中、簡易的にかつ短時間で、認知症の危険性レベルが判定できるシステムが身近に利用できるという点で、大変興味深く伺わせていただいた。

市としては、認知症の早期発見、医療へのつなぎの仕組み構築については、引き続き現在のタッチパネルでのスクリーニングシステムを中心としながら取り組んでいくが、議員が紹介された「認知症チェッカー」などは、若年層の方や、認知症が疑われる高齢者の家族の方が、自宅のパソコンやスマートフォンで、手軽に認知症のチェッカーが出来るという点での利便性があるし、また、それをきっかけに認知症予防に対して関心を深めたり、早期の医療機関受診に結びつくという効果も期待されるので、国分寺市の活用状況等も参考にしながら、導入に向け検討したい。

※秩父議員はこの他、胃がん対策について、議会でのタブレット端末の使用について、質問しました。



日本共産党 藤田和久 議員

Q 学校給食費の無料化を
検討できないか

A 食材費の負担は
引き続きお願いしたい

質問 学校給食費の無料化については、公教育関連費用の無料化として全国で実現しつつある。

是非、大仙市でも無料化を検討できないか。

市長 25年度から生徒会費及びPTA会費への支援を拡充したため、食材費等の負担はお願いしたい。

防災対策について

質問 現在の防災対策やハザードマップでは、最近の集中豪雨など、降雨量の増加に対処したのものになっているか何う。

市長 現在、避難勧告基準等の策定を行っている。降雨量の増加に対しては、国土交通省の見直し策定を受けてから作成することになる。

質問 8月の大雨で、南外地域や福部内川で影響があり、住民から「毎年同じような現象が起こる。どうにかできないものか」という声がある。現在進められている河川改修の進捗状況とともにどのように考えているのか何う。

市長 県では、福部内川、雄物川、檜岡川などで改善のための河川改修

や嵩上げを実施中であり、引き続き国土交通省や県に要望活動を行ってまいりたい。

質問 災害時の避難場所について相応しくないと考える地域はないか。

市長 避難場所については災害の種類毎に指定することにしており、新しいハザードマップにおいては分かりやすいように工夫したい。

質問 災害危険箇所などへの看板設置と住民合意の進行状況について何う。

市長 住民説明会は56回の開催でほぼ完了している。看板設置は平成27年度中に完了する予定である。

質問 ハザードマップの配布が遅れているが、それはなぜなのか何う。

市長 国土交通省の見直しを受けて、平成27年度配布を目指している。自主防災組織の組織率について、大曲地域を除外している理由または根拠を何う。

市長 当面、大曲町部以外で組織率100%を目指す。その後29年度までに全体で100%を目指す。

一般質問



新国会 茂木 隆 議員

Q 人口減少対策について(最重要課題として捉え、特命チームの発足を)

A 根幹をなす課題であり、若手職員の意見を聞く場を設け、次期総合計画に反映する。

質問 急激な少子化や、若い人の県外流出など現在のペースで人口減少が進めば、将来、自治体運営に大きな影響が考えられる。市民が将来に希望を持ち、健やかに暮らせる地域社会を次代につなぐためにも、最重要課題として捉えるべきと考えるが、市長の見解を伺いたい。

市長 これまで、結婚や子育て、教育支援など各種の施策を積極的に進めてきたが、現在も人口減少に歯止めがかからない状況であり、こうした状況が続けば、働ける世代の減少による労働生産性や活力の低下、地域コミュニティの維持への支障など、本市の行財政にも直結するものであり、市政のあらゆる分野の根幹をなす横断的な課題と捉えている。特命チームの発足についてであるが、本年5月、関係課若手職員で構成する定住移住の促進に関する庁内検討会議を発足させ、基本構想の策定を目指し協議を進めている。今後の国の対策の動向を注視し、国・県との歩調を合わせながら、雇用や住



市内6小中学校で「弁当の日」が行われています。

宅、結婚、子育て、教育支援など各施策の展開を図りたいと考えており、まずは、庁内の20代・30代等の若手の職員から意見を聴く場を設けるなどし、その意見を地元定着、人口減少の抑制のための施策として、平成28年度からスタートする次期総合計画の策定などにも結びつけてまいりたい。

※茂木議員はこの他、食育推進のため、①「弁当の日」の市としての取り組み、②「和食…日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録されたことによる食育への活用について、質問しました。



だいせんの会
古谷武美 議員

Q 高齢者の生活支援と
介護予防の取組について

A 大仙市では大きく分けて
15の支援事業を実施している

質問 「高齢者生活支援サービス事業」の各事業の実績と問題点を伺う。

老松副市長

市では「高齢者支援サービス事業」として「日常生活や見守り支援」、「介護家族への支援」、「高齢者の健康増進」に分類し、15事業を実施している。主な事業では、

労務提供をシルバー人材センターから受けた際の利用料を助成する「軽度生活支援事業」や24時間体制で見守り支援を行う「緊急通報体制等整備事業」通称「ふれあい安心電話」、食事の確保が困難な方に定期的に弁当を配達し見守りの支援も合わせて行う「配食サービス事業」などがある。昨年の実績として、「ふれあい安心電話」407世帯、「軽度生活支援事業」481世帯、「配食サービス事業」247人が利用した。また、重度の介護者を在宅介護している世帯に行う「家族介護用品支給事業」は167世帯、在宅サービスを利用しながら介護を継続される世帯に月額5千円支給する「家族介護者慰労金支給事業」は42世帯が受給している。今後はニーズが多様化しているため、必要に応じた見直しを実施していく。

質問 「要支援・要介護の予防」としての取組内容を伺う。



新政会
小山緑郎 議員

Q 健康増進センター東部の
業務体制について

A 現状の体制で
継続してまいりたい

質問 現在の業務状態にムダが多く見られる。その内容からして、事務所の移転が必要と思われるが伺う。

市長

中仙庁舎へ東部分室を設置した理由は、市民の利便性の確保と市民生活に直結する地域包括支援センターや関係課が常に横断的な情報交換を図りながら行政サービスを提供するため実施された。再編後の状況は、多様化する保健業務と、成人、母子、栄養、精神の担当性及び地域担当性の導入による効率性や分室間の連携等により効果的な事業推進が図られているので、現状の体制で継続してまいりたい。

一般質問

街灯のLED化事業について

質問 現在の事業の進捗状況と今後の計画、地元負担が生ずる場合その内容について伺う。

久米副市長

現在中仙地域で集落等が管理している街路灯は472灯あり、協議が整った14集落の129灯について今次定例会にLED化事業経費を計上しており、残り343灯は、今後2カ年で整備する予定である。既存電柱などに設置されてい

る街路灯の設置間隔の調査後、市に移管する街路灯については地元負担は生じない。移管されない街路灯については引き続き使用するか設置者の撤去となる。商業灯については補助金制度を活用していただき、負担の軽減を図っていく。



▲設置が進むLED街灯

雪対策総合計画について

質問 雪下ろしに関する家屋等への命綱取付用フックの設置などについて伺う。

市長

県の克雪対策と併せて、命綱用フックの取り付けやはしごの固定など簡単な工事から多様なニーズに合わせた克雪住宅を推進しながら、落下、落雪事故等の防止、市民の安全確保に努めていく。

※小山議員はその他、自治会除雪業務委託モデル事業の内容についても質問しました。



大地の会
金谷道男 議員

Q ふるさと納税者へ特産物を贈ることを考えてはどうか

A 大仙市らしさをアピールできる制度を検討したい

質問 ふるさと納税を原資に、ふるさと納税者の特産物等を贈り、特産品購入のリピーターや大仙市の宣伝マンになってもらうことを考えてはどうか。

市長 全国の自治体の中にはふるさと納税者の特産品を贈呈し、実績を伸ばしている例があり、特産品の販売促進や新たな開発もあることは認識している。制度開始から6年になり国では制度を充実させる動きもあることから、本市ではこれまでの取り組みを総括し、今後のふるさと納税の在り方について、ふるさと納税者や首都圏ふるさと会等のご意見をいただきながら検討していく。



ふるさと納税を活用して、市内の全小・中学校、認定こども園・幼稚園、保育園にふるさと納税文庫コーナーが設けられています

公共施設の老朽化対策について

質問 人口減少、少子化が進み、財政の厳しさが進む今、将来の街づくりを考えた公共施設等総合管理計画策定要請が総務省から出たが、大仙市の取り組みの状況はどうなっているのか。

市長 公共施設とインフラ施設の全てを対象とした計画である公共施設等総合管理計画は、全庁的な取り組みが必要なことから、来年度専門担当部局を設置し、策定を進める。計画内容は、人口減少の見通しや施設の内容、課題把握、今後の施設が提供するサービスの必要性等を踏まえ、本市の最適な施設の規模や数量、配置等の方針を検討する。

具体的には施設の経年劣化の状態や利用状況、稼働率、運営コスト等の分析情報を活用しながら、施設の維持管理、修繕、更新等の長寿命化実施方針や施設の複合化や機能集約による統合、廃止の基本的考えを盛り込む。また、計画の実施段階においては、施設利用者や地域住民の合意形成も重要なことから、地域協議会での協議やパブリックコメントを実施し、28年度の策定を目指していく。

一般質問



日本共産党
佐藤文字 議員

Q 子ども子育て支援新制度への認識は

A 地域子ども子育て支援事業の充実図られる

質問 子ども子育て支援法に基づく保育新制度は介護保険をモデルとしており、市町村の責任による保育の現物給付から、利用者と事業者の直接契約による現金給付の仕組みに変わることから、市町村の責任の後退につながる。また、新たに導入される地域型保育事業では、保育士資格者の割合や給食の扱いなどの基準が緩和されており、保育に格差が持ちこまれるなどの問題がある。

保育行政にあたっては、格差のない保育と現行水準を後退させず、拡大を図る立場で臨んでいただきたい。

市長 市長は新制度に対し、どのような考え、問題意識を持っているか。

市長 これまで進めてきた認定子ども園を一層充実できる環境が整備できるほか、地域の実情に応じた子ども子育て支援事業の充実が図られるものと認識している。

新制度により、幼児期の教育、保育、地域の子育て支援を総合的に推進してまいりたい。

ロタウイルスワクチン接種に助成を

質問 5歳までにほとんどの子どもが感染するロタウイルス感染性胃腸炎は、重症急性胃腸炎の入院で最も多いと言われている。

ワクチン導入後、ロタウイルス感染症は劇的に減少しており、集団免疫効果も認められている。ロタウイルスワクチンによる予防接種費用は1万円前後と高額であり、ワクチン接種への助成を求めたい。

市長 今月8月現在、公費助成している自治体は全国で107、秋田県では、にかほ市、由利本荘市、八峰町で実施している。

国においては、ロタウイルスワクチンの効果・安全性等について検討しており、この検証結果と国の動向を見極め、大曲仙北医師会と相談しながら検討してまいりたい。

◆委員会審査のあらまし◆

上程された議案は関係各委員会に付託され、審査が行われました。各委員会での主な質疑は次のとおりです。

総務民生常任委員会

補正予算案1件、陳情1件審査しました。

来年度以降の消防団員の待遇改善は

【問】来年度以降の消防団員の報酬と費用弁償の見直しはどうなるのか。

【答】普通交付税の算定において、報酬及び費用弁償は基準値が示されている。基準値にまだ達していない一般団員等の報酬の引き上げを検討したい。費用弁償もあるが、まずは報酬を基準値に達するよう努めたい。

空き家・高齢者世帯の除排雪事業の基準は

【問】空き家・高齢者世帯除排雪事業は、個人の財産に援助する内容から、実施にあたっては基準を設けてやるべきでないか。

の提出を求める陳情

経済が疲弊している現段階で消費税を10%にするには時期尚早と思われるなどにより、願意妥当として採択する意見と、10%に上げるか、上げないかは経済の動向を判断して検討することになっており、その時点で政府の判断に任せたいなどから、不採択の意見が出された。採決は可否同数となり委員長の決により不採択すべきものと決した。

国民年金のシステム改修費

は

【問】年金事務のシステム改修は、消費税が10%に値上げすることを前提としたものか。

【答】国からは消費税10%増税を前提とし、今年度中のシステム改修を指示されている。

討論

本予算には、政府が消費税を10%に上げることを前提としたシステム改修を行う国民年金費事務費を計上していることから、本予算には反対することの発言があった。

消費税増税に関する意見書

企画産業常任委員会

補正予算案6件、請願2件、陳情1件を審査しました。

社会保障、税番号制度システム整備について

【問】平成27年10月に通知される個人番号(マイナンバー)は身分証明として使用可能か。

【答】数字が12桁の個人番号を使つての身分証明は書類の提示が必要となるが、平成28年1月からは申請があれば「個人番号カード」が交付される。顔写真付きのもので、身分証明書としても利用でき

る。

【問】この制度導入により、職員の事務処理の負担減少につながるのか。また、情報漏洩対策はどうか。

【答】マイナンバー制度の導入に伴い、各種証明書の添付が不要になる関係から、職員の負担軽減につながる。情報漏洩が仮にあつても誰の情報か分からない仕組みや、個人情報が見ることができない情報システムの構築が検討されている。さらに個人情報保護対策として罰則を強化する対策を考えている。

買い物空白域解消対策事業について

【問】買い物空白域解消対策事業の対象世帯と対象者はどれくらいか。

【答】南外小友地区の約600世帯のうち、自動車や移動手段の無い高齢者世帯数が117世帯で、対象者は180人である。また、試験的に運行された7月の利用状況は、延べ406人の利用実績があつた。

教育福祉常任委員会

条例案5件、単行案2件、補正予算案3件、決算認定1件を審査しました。

大仙市特定教育・保育施設等の運営に関する3条例について

【問】3条例の基準を定めることにより、職員に不足は生じないか。また、財源的な手当は必要になるのか。

【答】職員数について増員の必要はないものと考えられる。財源の手当については、認可外保育所に対し給付が始まること、私立幼稚園の運営費に対して、新制度では国県の財源



米価下落や過剰米処理に伴う緊急の対応策を求める意見書を政府へ提出しました。

に市の負担分を合わせて交付することになるため、予算の増額が見込まれる。

高齢者等除雪サービス事業費について

【問】 高齢者等除雪サービス事業費の総合防災課等との連携とは。

【答】 昨年は4名の臨時職員をお願いした。同様に空き家の冬期間の巡回等のため臨時職員を雇用しており、今年度は連携し8名の臨時職員で行っていく。

市立大曲病院事業会計の決算について

【問】 医業損益が改善しているが、今後の見通しについて、どのように考えているか。

【答】 平成25年度は外来患者の伸びがあったが、人口減少しており今後増えるとは予想していない。国の医療政策は早期退院を促し、患者の地域生活支援に移行してきている。在院日数を少なくしつつ、延べ患者数を確保する方向で、今後も医業損益の改善に努めていく。

建設水道常任委員会

条例案1件、単行案1件、補正予算案1件、決算認定1件、請願1件を審査しました。

上水道事業剰余金の処分について

【問】 自己資本比率を上げるため、剰余金を資本投入する考えはないか。

【答】 今後想定される宇津台浄水場及び玉川浄水場の施設更新に向けて剰余金を積み立てているので、現在のところ、資本金については現状維持としている。

消雪施設等補助金について

【問】 近隣の市町村で、消雪施設設置に補助金を交付する制度を設けているところはあるか。

【答】 近隣の市町村で、秋田市・横手市・湯沢市・仙北市の4つを調査したところ、大仙市と同様に補助金交付要綱を策定しているのは横手市のみ。大仙市は、新規事業であれば補助対象事業費の1/2で限度額は200万円だが、横手市は、補助対象事業費の

1/2で限度額130万円である。

◀新設された消雪施設
(大曲地域朝日町の消雪パイプ)



除雪対策について

【問】 除雪に柔軟に対応できるように、各支所単位で自由算を持たせることはできないか。

【答】 突発的なものについては、一報いただいたうえで、本庁や市所間での流用で対応している。今後もそのように対応してまいりたい。

議会のうごき

- 7月**
- 1日 総務民生常任委員会「行政視察」(〜3日)
- 2日 東京都瑞穂町議会行政視察来庁
- 3日 大阪府茨木市議会、福岡県川崎町議会行政視察来庁
- 4日 栃木県さくら市議会行政視察来庁
- 8日 栃木県真岡市議会行政視察来庁
- 9日 議会報編集委員会、京都府亀岡市議会行政視察来庁
- 10日 議会改革推進会議、茨城県土浦市議会行政視察来庁
- 14日 建設水道常任委員会「所管事務調査」
- 15日 宮崎県宮崎市議会行政視察来庁
- 16日 議会報編集委員会、愛知県田原市議会行政視察来庁
- 17日 教育福祉常任委員会「所管事務調査」
- 大仙市・仙北市・美郷町議会議員交流会
- 23日 議会改革推進会議・議会報編集委員会「行政視察」(〜24日)
- 28日 宮城県名取市議会・柴田町議会、大分県中津市議会行政視察来庁
- 29日 秋田県南地域市議会議員研修会
- 31日 議会運営委員会
- 8月**
- 1日 大阪府泉南市議会行政視察来庁
- 5日 第4回臨時会・議員全員協議会・議員説明会
- 福島県相馬市議会行政視察来庁
- 茨城県常総市議会行政視察来庁
- 兵庫県川西市議会行政視察来庁
- 企画産業常任委員会「所管事務調査」
- 建設水道常任委員会「行政視察」(〜20日)
- 埼玉県熊谷市議会行政視察来庁
- 議会運営委員会・議会改革推進会議
- 大地の会・公明党・だいせんの会・会派合同行政視察(〜27日)
- 第3回定例会(第1日)・議員全員協議会・会派代表者会議
- 観光推進議員連盟研修会
- 9月**
- 8日 第3回定例会(第2日)・会派代表者会議・議会運営委員会
- 9日 第3回定例会(第3日)・決算特別委員会・議会改革推進会議
- 各常任委員会審査・所管事務調査
- 議会運営委員会
- 17日 建設水道常任委員会「所管事務調査」
- 18日 第3回定例会(第4日)・議員全員協議会・議員説明会
- 決算特別委員会正副分科会長会議・議会報編集委員会
- 北海道苫小牧市議会行政視察来庁
- 30日 沖縄県糸満市議会行政視察来庁

先進地に学ぶ

議会報編集委員会・議会改革推進会議は、合同で行政視察を行いました。

議会報編集委員会

◆議会報の編集について学ぶ

7月23日、議会報の編集について、さいたま市議会を視察しました。

「市議会だより さいたま」は、新しい議会広報の形を示したとして、2011年度PRアワードグランプリを受賞しており、具体的な取組として、第一印象で手に取りたいくなる表紙に、愛称の採用、アイコンの使用、とつきやすい見出しに、わかりやすい文章、写真やイラストの活用、短時間に読み切れる量、市民の声を掲載、議会の役割を伝えるなどをしており、企画・編集に民間ノウハウを活用し、見やすく、わかりやすく、親しみやすい紙面づくりを行うため、「企画編集業務」を外部委託して行いました。広報紙のほか、議会ホームページ、年4回のテレビ広報、イ

ンターネットによる議会中継など、多様な手段を用いて広報の充実を図っております。

大仙市議会でも「もつと多くの市民に広報紙を読んでもらう」ために、文字を大きくしたり、写真やイラストを活用し、ページ数も増やすなど努力しておりますが、尚一層の向上を図ってまいります。

(委員長 茂木 隆 記)



▲さいたま市での研修の様子

議会改革推進会議

◆議会改革の取組について

議会改革推進会議では、7月24日、全国810市区議会

の中でも、議会改革度ランキング調査で上位にランクされている千葉県流山市を視察し、その取組について説明を受けてきました。特に議会の市民への公開度、住民参加度、議会改革度等、そしてまた、議会基本条例の検証や議員定数等について詳細に説明をいただきました。質疑の中では、議員定数は現在28名のところを、2人減・4人減とするべきとの両論が出され、市民を対象にアンケート調査を実施。議員定数条例改正案2案（2人減、4人減）が上程され、採決の結果、両議案とも否決となり、現状維持となったことでした。また、議会基本条例の検証については、検証を行ったが、足かけ約9ヶ月かかったため、2年に1回としていく検証を、3年1回、4年に1回とするかどうか検討中とのことでした。その他いろいろ質疑がありました。

真剣に議会改革に取り組んでいる様子が見えました。この視察で学んだことを参考に、今後の大仙市の議会改革に取り組んでまいりたいと思っております。

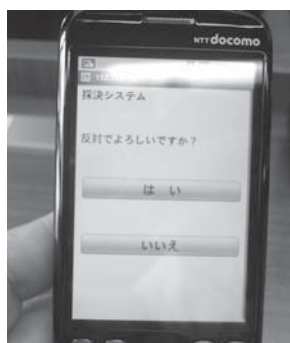
(委員長 佐藤清吉 記)

建設水道常任委員会

◆公園の管理運営、雲仙普賢岳噴火災害からの復旧・復興について学ぶ

8月18日から20日までの3日間、佐賀県「吉野ヶ里歴史公園」と長崎県島原市に行政視察に行つてまいりました。

吉野ヶ里歴史公園は全国的にも珍しい国営公園と県立公園が一体となった公園で、国営部分は国からの委託で一般財団法人公園財団が、県立部



▲採決にスマートフォンを使用



▲流山市での研修の様子

分は指定管理者制度により、地元の造園会社を中心とした共同企業体が管理し、連携を図りながら一体的な管理ができるよう工夫をしているとのことでした。また、周辺の2市町と毎月1回連絡会議を行い、公園主催の行事には必ずその2市町が参加し、逆に2市町の主催行事でも公園を活用するなどの連携を取っております。当市の活性化に参考になる点が大いにありました。

島原市は、平成3年の雲仙普賢岳の大火砕流発生により、43名の方が亡くなるなど被害が深刻化していく中で、情報伝達体制の充実・強化のため、防災行政無線の個別受信機を全世帯1万5千戸に配布しており、現在でも台風警報等に効果を発揮しているとのことでした。また、災害で発生した大量の土砂を処分するため、海岸の埋立工事や住宅再建用地等への嵩上げに利用してまいりました。

自然災害には日頃からの備えが大切であり、今回の研修を参考に、市の防災計画にも反映させてまいりたいと思っております。

(委員長 千葉 健 記)



▲島原市で研修を行う建設水道常任委員

▼会派行政視察報告

◆大地の会・公明党・だいせんの会会派合同行政視察

8月25日(月)～27日(水)、北海道札幌市及び小樽市へ3会派合同による行政視察を行いました。

札幌市では、「決算審査のアプローチ」と題した講義を受講してまいりました。予算の仕組みから決算審査の意義、審査の着眼点のほか、審査における模範的な資料の見本なども例示していただくなど幅広い内容で、11月の決算審査を前に非常に有意義な講義となりました。

小樽市では、当市でも制定に向けて動き出している「自治基本条例」について学ん

まいりました。条例制定を目的とするのではなく中身のある条例にするため、小樽市のように、市民と行政・議会が一体となってじっくりと時間をかけて議論しなければならぬと感じました。

また、同じく小樽市において、「全国若手市議会議員の会」の活動について学びました。同会は政策立案能力を高めるため、全国組織の利点を活かして定期的に研修や意見交換などの活動をしており、政策の提言が大きな役割の一つである議会(議員)において、同会のような横の連携と情報の共有が重要になり、会派としてもっと取り組む必要があると感じました。

本年度2回目の
観光推進議員連
盟研修会を開催

大仙市内の多くの誇れるもの

を見つけて出す第2回目となる視察を、8月29日に大曲・南外地域で行いました。大曲地域では、角間川の浜蔵と古民家、本郷家を訪ねました。これら貴重な建物は、藩政時代から明治にかけて雄物川の舟運の中心地として大いに繁栄した歴史を今に伝えるものです。本郷家の当主の本郷元氏よりお話を伺いました。敷地面積6,800㎡に、明治2年に内蔵、同33年母屋、昭和3年に洋館と板塀を建設、床面積は1,000㎡と、いずれも立派な造りで手入れも行き届いており、池田家と同じく後世に残しておきたいと感じました。お昼は余目産直そば処で、おいしいピザと手打ちソバを頂きました。余目地域は平成16年に活性化いきいき会議協議会を発足し、ほたるの里づくり、さくら花火鑑賞会など自然を生かした活動を続けており、地域活動のモデルとなっております。



▲小樽市役所前にて



▲余目地域活性化対策いきいき会議協議会三浦会長より、ビデオを使って活動状況を拝聴



▲当主の本郷元氏より、保存状況などの説明を受ける



▲見事な光沢を放つ榎岡焼の作品

南外地域では不動の滝の散策、国登録有形民俗文化財南外の仕事着、榎岡焼の窯元を訪ねました。南外の仕事着を地道に収拾・保存を続けてきた成果や、榎岡焼の伝統を守り、新たな榎岡焼を目指している姿に大変感銘を受けました。

今回お世話になった皆様にご心よりお礼申し上げます。次回は27年の6月に神岡・中仙地域を予定しております。

(観光推進議員連盟)

会長 高橋幸晴 記

「市政懇談会」でいただいたご意見・ご要望の対応について

6月23日～27日まで開催した「市政懇談会」において、市民の皆様からいただいたご意見・ご要望については、議会改革推進会議及び各常任委員会で協議した結果、大仙市議会として下記のとおり対応いたします。

また、市民の皆様から開催のご要望があれば、いつでも皆様のところへ出向きますので、おしらせください。

| No. | いただいたご意見 | 大仙市議会の回答 |
|-----|--|--|
| 1 | 県内の各自治体が人口減少する中で、大潟村だけが増える要素があって、他はなぜ減っていくのか、その違いはどこにあるか。それに対し、どの様に取り組んでいくか。対策を講じることで、若い人の定住につながっていくのではないかと。 | 明確な理由は定かでないが、大潟村の場合は、大規模農家が多く、一人当たりの所得が高いこともあると思う。 |
| 2 | 大潟村だけが人口増加していくのは、所得水準が高いことだけが理由でないような気がする。大潟村が人口増加する理由をしっかりと調査することが今後の施策に役立つと思われるので、調査すべきと思う。 | 市当局へ文書で伝えました。 |
| 3 | 人口減少が進むと国保の負担が大きくなり大変であるが、その対応を考えているのか。また、医療費の削減には予防が大切と思う。予防医療に力を入れていくべきと思う。 | 人口減少が進むと国保は維持が大変である。今、国では国保を県単位での保険制度にしたいということで動いている。この方向に進むのでないか。予防による医療費の削減は大事と思う。医療担当だけでなく福祉、社会体育関係が協力してやらないといけない問題で、議会としても考えていく。(市当局へも文書で伝えました。) |
| 4 | 南外では店や食堂がなくなり、若い人たちは大型店や勤め帰りの買い物ができるが、高齢者は買い物難民になっている。移動販売車への支援などが考えられないか。 | 5月に商工会や支所、事業者で話し合いを行った。試験的に6月と7月に進藤商店が移動販売車で回り様子を見ることになっている。 |
| 5 | 収入と人口増は大いに関係があると思う。南外は高齢者が多く年金収入が頼りである。自立することは大切であるが、起業するための補助金があるにしても自己資金が問題でなかなかできない。何か高齢者向けの収入源のアイデアはないか。 | 大豆の大規模化も補助制度や米並みの所得が見込まれる。大曲工業生の評価が高く、このような若い人材を生かし育成しながら、どんな企業を誘致できるか検討していきたい。(市当局へも文書で伝えました。) |
| 6 | 先日、仙北ふるさと会が地元で開かれたようであるが、その効果はどの様なものであったのか。 | 仙北のふるさと会の20周年事業として地元で総会を行った。毎年ふるさと会には地元から40名ぐらいが参加している。相互交流がないとふるさと会は続かないのではないかと。また、仙北には旧池田氏庭園があり、会の集まりにも一役買っていると思う。太田では、2年前に20周年事業として地元で総会を開催している。太田の秋祭りにあわせて東京からバス1台で訪れ、イベントに参加したり、町内めぐりをし、交流を深めている。 |
| 7 | 以前、公債費比率や将来負担比率等の財政数値が大仙市は県内で良くない方であると聞いたことがあるが、今はどうなっているのか。 | 前は財政数値、公債費比率や将来負担が大分悪かったが、公債費適正化計画により、平成24年度決算では、公債費比率は18.4%、将来負担比率は161.3%となっている。他市との比較もあるが、それよりも自分の数値として少しずつでも下げる努力をしないとけない。議会としてもしっかりと監視する。 |
| 8 | 市の各種審議会等の委員を見ると高齢者が多い様な気がする。若い人をもっと入れるべきと思う。 | 市当局へ文書で伝えました。 |
| 9 | 市政懇談会に未婚、既婚者を集めて、直接意見を聞く機会を設けてはどうか。 | 平成26年中に、若い人が集まる場を利用し、市政懇談会を開催するよう、検討する。 |
| 10 | 市政懇談会に、若い人の中には、集落の過疎化について、小集落へのインフラ整備より利便性のあるところへ誘導すべきだとの意見を持っている人もいる。いろいろな考えを聞くためにも若い人も集まれるような時間の開催を考えてはどうか。 | 平成26年中に、若い人が集まる場を利用し、市政懇談会を開催するよう、検討する。 |
| 11 | 議会の定数、報酬は、どの程度が適正と考えているか。 | 議会基本条例に基づき、検討を加えることとなっている。現在、議会運営委員会で検討することになっている。 |
| 12 | JAのあり方について この地域には米の研究会がいくつかあり、それぞれ活動をしているが、JAとしては米の研究や販売戦略が遅れているのではないかと。秋田は生産そのものよりも販売に対する政策、統一されたものがないように感じる。行政として指導や助言、県への働きかけなどの計画は考えているか。 | 秋田は販売の仕方が非常に遅れていると感じている。生産者の意識改革も必要であると感じている。(市当局へも文書で伝えました。) |
| 13 | 大仙市が農業でいくのであれば、実態を知らなければならないと思う。他県で生産された『あきたこまち』の新米が、県内の店頭と並ぶが、防ぐことはできないか。 | 商売のことなので、ある程度やむを得ないと思う。 |
| 14 | 年金の減額、消費税増税、ガソリンの高騰などで、生活が苦しくなっている。例えば、年金は毎月入るようにしてはどうか。 | 自治体単独では実施できる問題ではないので、国へ要望活動を行っていく。 |
| 15 | 『大曲の花火』の火薬が屋根に落ちてトタンがサビやすくなっている。 | 市当局へ文書で伝えました。 |
| 16 | 誘致企業対策について、自分はいい話をしているつもりであるが、大仙市からは全く返事がない。大仙市は本気で取り組んでいるのか。 | 市当局へ文書で伝えました。 |
| 17 | 県内の平均寿命が他県に比べ短い。また、健康診断の受診率も低いのが対策はどのようになっているか。 | 平均寿命の全国一は長野県であり、野菜の消費量が多いという特徴がある。健康診断を受けるよう指導するとともに、食生活の改善等も促していく。(市当局へも文書で伝えました。) |
| 18 | 園芸メガ団地のような取り組みを、各地域でできないものか。 | 秋田県内は3月から10月までしか作物はできない。11月から2月までは雪のため、作物の加工の時期になる。(市当局へも文書で伝えました。) |

南外地域
(21人)

サンク
エス
ト大曲
(20人)



| No. | いただいたご意見 | 大仙市議会の回答 |
|-----|---|---|
| 19 | サンクエスト大曲(20人) 1) 男性の寿命が短い。何か対策が必要ではないか。 2) 認知症の対応について、現在の予算で間に合うか。また、床数が足りないのではないか。 | 1) 現役退職後の日常生活へ、いかに男性を参加させていくか、また福祉・保健施策で、発言された方のご意見も伺いながら、当局へ提案してまいります。 2) 認知症のベット数については、地域医療計画の中で定められているベット数もあることから、市内だけでなく県内にある病院でカバーしていかなければならないものと思っている。必要があれば議会でも提案してまいります。(市当局へも文書で伝えました。) |
| 20 | 大曲厚生医療センターの職員(看護師)の対応、言葉使いが良くない。市も深く関わっているの、議会からも働きかけてほしい。 | 市長・議長が出席する病院運営の会議の場で強く発言していく。(市当局へも文書で伝えました。) |
| 21 | 大曲駅を降りてから観光する場所(案内する場所)がない。旧池田氏庭園等を通年開放していつでも見学できるようにできないか。 | 旧池田氏庭園は現在修復中であり、完成すれば紹介できると思う。 |
| 22 | クリーンセンターの作業員が、マスクを着用しないで作業を行っているが、健康面に問題があるのではないか。 | クリーンセンターから回答を得たので、本人に伝えます。 |
| 23 | 議員が視察に行ったあと、行きっぱなしでなく、政策に反映させてほしい。 | 先進地視察の報告は書面で行っている。すぐに大仙市に取り入れることができるかといえば、必ずしもそうではないということをご理解いただきたい。 |
| 24 | 議員の定年制について、JAなどは役員の定年70歳と聞いているが、議員の定年について考えを伺う。 | 議会としては決められない。市民がどう考えているか、選挙で伺う。 |
| 25 | 議員定数について、由利本荘市や横手は26名である。どのように考えているか。 | 議員定数については、議会運営委員会で検討しているが、市民の声が届かなくなることや、常任委員会が機能しなくなる等のことから、現在の定数が妥当と考える。 |
| 26 | 議員報酬について、高いと思うか、安いと思うか。 | 議員活動等を考えると、もう少し報酬が高くても良いのではないかと。報酬だけでは生活できないので、若い人材が専任して生活ができるような報酬であるべきと考える。 |
| 27 | 任期4年の中で、一般質問をしない議員はいるか。 | 人数は少ないが、いる。 |
| 28 | 内小友公民館(6人) 人口減少対策として、若年層がどういう職種を求めているか、直接聞く機会を設けてはどうか。(中学生など) | 中学生及び高校生を対象にどういう職種を求めているかアンケート調査の実施を市当局へ要請していく。議会としては、調査結果を参考に、どのような政策が必要か検討していきたい。 |
| 29 | 病院は整備されたが、優秀な医師を配属するよう働きかける必要があるのではないか。 | 議会としても懸念しているので、今後働きかけていく。(市当局へも文書で伝えました。) |
| 30 | 中沢に建設予定の花火工場について、是非とも実現してほしい。予定地に沼があるが、緑のコケが発生しているの、環境調査や対策が必要ではないか。 | 沼の水質について、改良区で年1回調査しており、安全であるという結果がでている。今後、工場建設・稼働になれば、今以上に水質検査を実施することになると考える。 |
| 31 | 消防本部の防災行政無線設備が古くなっている。自主避難を進める上で大切である。新しく構築するべきと考えるがどうか。 | 次年度完成のコミュニティFMなどを有効に活用していく。 |
| 32 | 空き家が増えているが、その対策は。 | 借り手がいれば貸すこととなるが、借り手がいない現状で苦慮している。危険な場合は、行政代執行をし、費用を所有者に請求している。 |
| 33 | 空き家の解体について、危険な状態のため解体した場合、所有者がいなかったときの費用はどうなるか。 | 条例の整備が必要であるが、そのまま放置しておかれないので、最終的には市で負担することとなるのではないかと。喫緊の課題であるため対策が必要と考える。 |
| 34 | 未来債の発行は、起債に比べ、金利差を見ても、市(市民)の負担が多くなるのではないかと。また、市の監査は秋田市のように公認会計士によって行われているか。外部監査が必要でないか。 | 金利は0.1%ぐらい高くなるが、まちづくりは市民全体で意識することが必要ということで協力いただいている。また、監査委員は市のOB等でなく、常勤で行っている。 |



| No. | いただいたご意見 | 大仙市議会の回答 |
|-----|--|--|
| 35 | 角間川公民館(15人) 1) 下水道事業の見直しに関連して、合併処理浄化槽に切り替えられていくと聞いているが、下水道の改良は全市的に進められているのか。 2) また、合併処理浄化槽を推進していくとなると、排水が流れる側溝の改良が必要と思う。 | 1) 下水道事業については、各地区で持っている計画に基づき、整備されている。しかし、加入率が低い見直しを行い、現在は合併処理浄化槽を進めている。 2) 現地付近は集中豪雨時に側溝から水が溢れ、道路が冠水する箇所であり、当局では、流末の調査をした上で、対策を検討している。 |
| 36 | 1回目、2回目の市政懇談会で出された要望に対して行われた成果の検証は行っているか。 | 検証は、広報やホームページで公表している。 |
| 37 | 防災ハザードマップでは、水害の場合の避難場所が角間川小学校の2階になっている。ここには冠水1m~2mのところを歩いて行かなければならない。また角間川町民全世帯が避難できる広さがあるかなど、避難場所として適正か。 | 現地を確認したところ、築堤が決壊した場合はご意見のとおり災害になると思われる。一時避難場所としては有効と思われるが、築堤の決壊等、災害の状況に応じた避難場所を再度検討するとともに、地域住民にもその旨を十分に周知するよう要望して行く。 |



| No. | いただいたご意見 | 大仙市議会の回答 |
|-----|--|---|
| 38 | 雄物川堤外の排水ポンプ配置数は適正か。訓練と作業手順を明確にしてほしい。 | 現地調査と担当職員の説明によると、雄物川上流で水位が上昇すれば国交省が排水ポンプ車を待機させる委託体制が整っており、1台あたり1分間に60トンの排水能力を有することから、適正な配備がされているものと思われる。 |
| 39 | 大仙市の税金は県内の市と比較して高いか。比較した分かり易い資料を公表して欲しい。 | 秋田市に比べれば若干安い。固定資産税や市民税は県内でそんなに変わらない。介護保険税は施設が増えた関係で高くなっている。(市当局へも文書で伝えました。) |
| 40 | 角間川の空き家件数はどのくらいあるか。また、それに対する対策はどうなっているのか。 | 65件の空き家があり、そのうちの60件は所有者や親せきで対応している。残りの5件については、市総合防災課を中心に対応しているが、今後議会としても注視していく。 |
| 41 | 小学校の統廃合の展望について聞かせてほしい。 | 統合計画に基づき進められている。現在は統合の予定はないが、地域の人たちの意見を尊重しながら進めていく。 |
| 42 | 3.11の震災後、災害発生時の市の広報のあり方について検討されたか。給水場所についても検討したか、知らせてほしい。 | 広報車巡回の周知徹底の確認と給水場所の改善について関係機関に要望していく。あわせて地域の防災訓練などを行い、いざという時に備えられる体制整備を進めていく。(市当局へも文書で伝えました。) |
| 43 | 農協の後ろの通りの側溝を整備してほしい。 | 現地付近は集中豪雨時に側溝から水が溢れ、道路が冠水する箇所であり、当局では、流末の調査をした上で、対策を検討するとしている。 |
| 44 | 冬のスポーツ施設の整備を要望する。スケート場などを整備し、まちの活性化を図ってほしい。 | 市当局へ文書で伝えました。 |
| 45 | 角間川地区に久しぶりに農業後継者が誕生した。この後も支援を願いたい。 | 市では、東部と西部に新規就農者研修施設がある。これは市独自の施策で、議会としても、後継者育成について、今後も継続していくよう要望していく。(市当局へも文書で伝えました。) |
| 46 | 新規の企業に支援はあるか。また、町内会等における横の繋がりが薄い気がする。意見を聞くなどの連携をお願いしたい。 | 体制づくりについて、地元議員を中心に検討し、進めていただきたい。また、地域枠予算を積極的に活用してほしい。 |
| 47 | 福島、宮田地区の基盤整備事業(約60ha)は採択が5年先と言われている。一刻も早く整備されるよう要望する。 | 1年でも早く実施できるように鋭意努力する。(市当局へも文書で伝えました。) |
| 48 | 県の政策に対応できるような基盤整備計画をされるよう、議会から要請していただきたい。 | 市当局へ文書で伝えました。 |
| 49 | 雇用の拡大が大事と思う。神岡笹倉地区の工業団地はどうなっているのか。 | 市でも議会でも何とかしたいが具体案がない。自然エネルギー等の発想もあったが、秋田県でも模索している状況である。市と一体となって頑張っていきたい。 |
| 50 | 基盤整備事業から外れた地区の土側溝をベンチフリュームで整備していただきたい。組合員も負担するので、市の方から県に強力でお願いいただきたい。 | 受益者にできるだけ負担のかからない制度を活用いただくことになる。今後、活用できる制度の周知に努めていただくよう市当局へ要請していく。 |
| 51 | 宇留井谷地地区の築堤が完成できるよう今年も陳情活動をしたと考えているので、市議会議長からも同席いただきたい。 | 7月に市長と一緒に陳情活動を行う。地域の陳情活動で要望があれば参加したい。 |
| 52 | 水害防止のために雄物川の中州を浚渫できないか。砂利は建設資材としても使用できると思う。 | 雄物川の中州の浚渫は行わず、砂利の採取も許可しないというのが国の方針であるため、今後の推移を見守る。 |
| 53 | 市議会議員の構成は30代、40代の若い人がいない。子育て施策に頑張ってもらいたい。女性の主婦も必要と思うが。 | 若い人はあまり政治に関心がないのではないかと。若い人向けの政策を議会を進めていきたい。 |
| 54 | 消防団員の定年延長は高齢者が多くなり、現場での活動に無理が出てくるように思うが、そうした点も踏まえて定年延長を議決したのか。また、このあともっと年齢の延長もあるのか。 | 審査の過程では、そのような意見もあった。ただ全員が定年延長になるのではなく、希望者についてとのことだった。また、現下の団員の定員割れを考えると、その対応策の一つになると考え賛成した。更なる定年年齢の延長はおのずと限界があると思う。 |
| 55 | 消防団員の定員割れや高齢化を考え、少人数でも活動できるよう、全部の班に積載車を配置すべきと思う。 | 市では消防団の再編に向けて検討中であるが、消防団の全班に小型ポンプ積載車を配備することにより機動力が上がり、かつ定員も守られるものと思われるので、市に要望して行く。 |
| 56 | 町部を流れる水路は、消雪用として使っているが、ふたがなく、危険である。また、冬場の水量確保には水路の整備が欠かせないが、町内会は高齢世帯が大部分であり年々作業が大変になっている。何か対策はないか。 | 水路にふたをした場合の除雪作業等への影響について、要望住民の方々と市当局で十分に精査し、その上で市の実施計画に盛り込まれるよう検討していただきたい。 |
| 57 | 要望している道路がなかなかできない。《浮島バス停から》恒久的な補修をしてほしい。要望事項の途中経過の報告が欲しい。 | 住民の意向に沿って、出来るだけ早期に補修できるよう、検討してまいります。 |
| 58 | 未舗装道路の春の路面対策など、各地に要望事業がある。1～2年で完成するようにしてほしいし、途中の状況報告がほしい。 | 財政上、除雪路線で緊急度が高い道路から優先的に舗装していく方向に、ご理解いただきたい。 |
| 59 | 旧町村の道路整備に力を入れてほしい。圃場整備事業で幹線道路用地として創設した用地がいまだに整備されないのが、管理が大変になっている。いつまで地域で管理すればよいのか。整備の方向付けをしてほしい。 | 農地・水事業を活用している事例もある。現地も分かるので、持ち帰って検討させていただきたい。(市当局へも文書で伝えました。) |

角間川公民館
(15人)神岡地域
(21人)中仙地域
(18人)

| No. | いただいたご意見 | 大仙市議会の回答 |
|-----|---|--|
| 60 | 税の申告会場について、休日に行ったところ、待合室に暖房がなく大変寒い思いをした。対策を検討してほしい。 | 市当局へ文書で伝えました。 |
| 61 | 自主防災組織を行政の指導により作ったが、どのような活動をすればよいのかが良くわからない。指導を強化してほしい。 | 自主防災組織は作るのが目的ではない。どのような活動をするのかがなければ意味がない。作る指導だけでなく、事後の活動の相談に乗るのが行政の役目と思う。担当部局に事後指導をするよう要望する。 (市当局へも文書で伝えました。) |
| 62 | 地域のあるべき姿をみんなで作るべきと思う。地域の発展計画を創るべきと思う。 | 地域の発展計画を創ることは大事なことである。今市では、新たな総合計画を作る作業に入っている。いろいろな場面で、意見や提案できると思うので是非参加してほしい。 (市当局へも文書で伝えました。) |
| 63 | 農協によるメガ団地事業が進んでいるが、地域活性化のために上手くいってほしい。そのためには実際に運営する会社《法人》の経営指導を市としてもしっかりやってほしい。 | 市も補助金を出しているので経営指導もすると思うし、議会も決算審査では当然審査対象になる。 (市当局へも文書で伝えました。) |
| 64 | 西部は学校統合が行なわれたが、東部地区についてはどうなっているのか。  | 教育委員会としては、学校適正化計画により行っているが、上から目線ではやらない。あくまでも地域の要望が大事と考えている。 ・中仙の実状⇒7月19日にPTAと議員が話し合いをもつことにしている。 ・太田の実状⇒過去に太田南小学校と太田北小学校の統合の話があったが、PTAや地域で何回か話し合いがもたれた結果、統合するまでは行かなかった。その後は特に動きはない。 |
| 65 | 八乙女野球場スタンドのサビとカビがすごい。市外からの来場者も驚いている。速急に補修してほしい。 | 支所と良く協議をして、教育委員会に要望してほしい。 (市当局へも文書で伝えました。) |
| 66 | 大仙市の振興計画の見直し時期はいつか。 | 27年度が最終年度で、28年度から見直された計画になる。今年度から準備作業に入っている。地域版の計画を作成し、市へ要望していつかはどうか。 |
| 67 | 座間市を訪問したとき、議会を開会中でないのに議員が大勢集まり、会派毎に研修をしていた。大仙市では会派の研修はどうなっているのか、今回の報告の中に休会中の議員活動報告も入れてほしい。議員にはしっかりと勉強してほしい。 | 会派研修については、それぞれテーマを決めて研修している。先進地研修報告も各議員からの報告書を議会報に掲載し、情報公開している。又、行政調査を元に一般質問や予算要望として政策提案している。今後もこのような方向で計画していきたい。 |
| 68 | 通学路のライン引きについて、2年前からお願いしているが、まだ検討中か。 | グリーンベルトという方法もある。いろいろ工夫し、早期に実施できるように検討していきたい。 (市当局へも文書で伝えました。) |
| 69 | 坂の上橋を車が通るたびに、すごい音がする。直してほしい。 | 市当局へ文書で伝えました。 |
| 70 | 最近の気象の変化に対応する米の品種改良はどうなっているのか。 | 農業試験場では品種改良を進めていると聞いている。まだ供給の段階までは至っていないと思う。種蒔きから出穂の対策をすることで少しでも防げるものと思われる。 |
| 71 | 三角の不思議な草が2～3年前から増えているが、市で調査しているのか。生態系が崩れる気がするが、対応できないのか。 | 実際に見てみないとわからない。セイタカアワダチソウかも。 |
| 72 | 除雪について、市に連絡しても対応が遅い。ロータリー車を増やして対応すべきではないか。 | 状況に応じた対応をし、また住民の要望にはきめ細かく答えていく体制の構築を、市当局に要請していく。 |
| 73 | 中国からのPM2.5について、どういう対策を考えているのか。 | 市で何ができるか明言はできないが、国、県の対応を今後も注視し、必要があれば市でも対策を考えていきたい。まずは国、県の動きを注視していくべきと思う。 (市当局へも文書で伝えました。) |
| 74 | 医療・介護総合法案に関して、事務が市に移管されることになるがどう考えているのか。 | 平成29年4月から着実に新制度を開始するように、また、利用者への周知徹底についても、当局に働きかけていく。 |
| 75 | 旧双葉小跡地の活用（アーカイブス）について、公文書館を作ることになっているようであるが、現在どのような構想になっているのか。アクセスとしてバス運行の予定などはあるのか。 | 現在の文書等は中仙支所の2階などに保管されているが、とても入りきらない状態。今後、一括して管理する構想。アクセス道路の整備は要望している。バスの運行については厳しいと思う。 |
| 76 | 畑などの耕作放棄地について、市のネットワークで市民に提供するというようなことは考えていないのか。 | 耕作放棄地は畑に限らず、水田も沢山ある。農業委員会の方にも相談してみてもどうか。 (市当局へも文書で伝えました。) |
| 77 | ①アメシロ対策は市でやっていたものが、自治会に移管された。自治会では朝8時から17時までの重労働である。どのように考えているのか。 ②お金は市から出るのか。 | 噴霧機の貸し出しと薬剤の無償提供を行っていることに加え、環境整備の観点から、散布に要する労力の提供は、今後も地元の方々にお願いしたい。作業の実施については、重労働にならない工夫を自治会内でも検討いただき、無理のない作業の実施をお願いしたい。 |
| 78 | 国民文化祭について、市ではどのような計画で予算はどれほど持っているのか。 | 県とテレビ局での事業となり、市での具体的な予算は今のところない。市長は何かあった場合には全面的に協力したいと言っている。 |
| 79 | 刈和野の綱引きは重要文化財になっており、維持管理にも経費がかかっている。市からの予算は何かないのか。 | 平成17年の市町村合併時から毎年、補助をしている。 |
| 80 | ①空き家対策について、解体したあと更地にした場合に固定資産税が高くなるとの話を聞くが本当か。 ②空き家対策を進める上で税金が高くならないようできないのか。 | 空き家対策は全国的な問題であり、国でも空き家対策特別措置法が提案される動きも見られることから、同法が制定されてから対応できるよう進めていきたい。 |

中仙地域
(18人)

西仙北地域
(44人)

| No. | いただいたご意見 | 大仙市議会の回答 |
|-----|---|---|
| 81 | 大仙市の公債費について、今後の見通しはどうか。 | 現在の実質公債費比率は18.4%、来年度は18%をきると想定される。財政の健全化に向かって少しずつ動いている。 |
| 82 | 大曲厚生医療センターができ、良い傾向と思うが、大曲中心部だけが栄えるだけでなく、各支所の実施計画は大仙市の予算に反映しているのか。 | 実施計画は緊急性などを考慮しながら、基本的にローリング方式で行っている。地域の議員でも見直しの確認をしている。地域の皆さんからも要望があったらお願いしたい。 |
| 83 | 企業誘致活動を行う際に、管内の企業関係者（商工会や農協）を同行させたらどうか。 | 企業誘致については、今後もしっかり取り組んでいきたい。（市当局へも文書で伝えました。） |
| 84 | 道路陥没箇所等の補修について、毎年お願いし続けているが、予算がないと返答される。予算がついたのか、いつから着工されるのか伺いたい。 | 当局では、国に申請中の国庫補助が採択され次第、27・28・29年度の3カ年で補修をするとしている。 |
| 85 | 花壇の経費について、町内会で購入し花を植えたが、大仙市にも自治会整備費用交付金？というのもあるので、要望したならば交付願いたい。 | 西仙北地域の地域枠予算を使う等、検討してみてもどうか。 |
| 86 | 納税組合連合会が解散され、町内に移管されたが、まだあいまいで納税組合の還付金がないが、どうなっているのか。 | 納税組合が解散される時点で自治会支援金が嵩上げされている。納税組合は解散になって廃止されているので、ご理解願いたい。 |
| 87 | 農業問題について、中山間地域は耕作放棄地がかなりあるが、今後どのように対応していくのか。 | 稲プラス何かを考えていただき、農地をフルに活用できるようにしていただきたい。圃場整備を集落や地域の皆でできるような進めてもらいたい。 |
| 88 | 人口減少に対して、議員定数の見直しを考えているのか。 | 人口が減ったから議員定数を減らすといった単純な問題ではない。地域の声を反映できる定数の確保が必要。今後の状況を踏まえて検討していきたい。 |
| 89 | 1) 国道13号の4車線化を急いでほしい。和田から先はどのような計画になっているのか。 2) あま池の整備について、今年の予算で淀川簡易水道水源施設を新設するようだが、市単独か県と共同で行うのか。 | 1) 国道13号の整備は、地元議員が市議会に要望している。 2) 昨年度ボーリング調査を行って水源地を確保している。今年からの計画を組み、県の補助事業を要望しながら進めてまいりたい。 |
| 90 | 1) 人口減少の中、少数集落の維持はどうするのか。 2) 農業の維持について施策はないか。 3) 各駅周辺環境整備が必要と思うがどうか。 4) 20年後を見据えた総合的な施策、新しい取り組みが必要になってくると思われる。 | いずれについても、市として長期計画の中で協議されていることから、議会としても機会あるごとに検討し、対処していきたい。 |
| 91 | 協和やすらぎの里の予算内容を教えてほしい。 | デイサービス事業のソフトの部分で利用者負担が1割、残りが国の補助金である。 |
| 92 | 特別養護施設の待機者はいるのか。 | 待機者はいる。介護度の高い順の入所となるため、介護度の低い人は後回しになることもある。 |
| 93 | 船岡地区の県道緑色の雑草の草刈りをしてほしい。自治会では負担が大きい。 | 県の方に連絡して、現地を見ながら草刈りしていただくようお願いする。 |
| 94 | 大仙の農業について、今後維持できるか。 | 議会としては、大仙市の基幹産業として維持していかなければならないのは当然と考えており、JA等の関係機関と歩調を合わせ、最善の努力をしていきたい。 |
| 95 | 市役所本庁舎の建設について、旧大曲市の環境整備だけが進んで、周辺地域は整備が遅れている。活性化につながる庁舎建設を考えたかどうか。また、市内のどこからでも30分以内に庁舎に行けるようにすれば、いろいろな機能が高まると思われる。 | 耐震工事をしたばかりなので、近々には庁舎建設はないと思われる。 |
| 96 | 小中学校の給食において、米飯を勧める条例を作ったらどうか。 | 【現状】市内全ての小・中学校において、週5日のうち4日は米飯給食。1日は隔週で麺類、米粉パン。十分地元産米が提供されており、また、児童・生徒の豊かな食育の観点からも現状のままで見守る。 |
| 97 | 職場のないことで人口流出につながっている。新規起業者に空いている市の施設を無料で貸与できないか。 | 現在も空き校舎等の貸与を行っており、賃貸料については、固定資産税相当分の必要最低限の額となっている。公益性を考えると雇用の拡大が図られることから、現行どおり進めていくのが最善の方法と考える。 |
| 98 | 企業誘致について、県が消極的なので市独自に活動をしたらどうか。農業が職業に成り得ないことは残念である。市内のどこに行っても、大仙市産のおいしいご飯が食べられるようになったらいいと思うし、それが小さい農家が残り1つの方法になるのではないかとと思う。 | 企業誘致については、今後も引き続き努力していくことに加え、6次産業化を推進するなどして、農業が生き残れる方策を検討していきたい。 |
| 99 | 県立大学や国際教養大学と連携するなど、若い世代を地域に受け入れる施策を講じたらどうか。大仙市は何もないが、放射線の心配もなく、自然がいっぱいである。こういうものを生かしてはあげばよいのではないかと。 | 産学官連携は行っているが、今以上の促進を図りたい。 |
| 100 | 婦人会で議会傍聴をさせていただいたが、議員の皆さんの声が聞けなかった。今日は、議員の皆さんの声が聞けてよかった。少子高齢化とあちこちで言われているが、高齢者にとって聞き難い言葉で、何か悪いことをしているような気持ちになる。地域の思いやりが必要だし、地域のよいところを大切にしていきたい。 | ご意見として、お伺いいたしました。 |



| No. | いただいたご意見 | 大仙市議会の回答 |
|-----|--|---|
| 101 | 人口減少、深刻な問題。議会では具体的な対策はあるか。プロジェクトチームを作って議論してほしい。 | 議会としても深刻な問題と捉えており、一般質問を通じて市当局と議論している。議会としてのプロジェクトチーム設置についても、前向きに検討していきたい。 |
| 102 | 奨学金を貸している子ども達が県外に就職するなど矛盾を感じるので、ふるさと納税をしていただくなど、縛りを設けてはいかがか。 | 地元に戻って就職をすると、奨学金の免除がある。ふるさと納税は、協力していただくということだと思う。 |
| 103 | 空き家が増えているが、市の予算で改修して、何年かここに住めば、譲渡するという仕組みを、大仙市でも行わないか。 | 空き家対策は全国的な問題であり、国でも空き家対策特別措置法が提案される動きも見られることから、同法が制定されてから対応できるよう進めていきたい。 |
| 104 | 人口減に歯止めを掛けるのは、子どもを増やすことだ。結婚をサポートするような、プロジェクトチームがあってもいいのではないか。 | 県でも市でも、出会いの場を設けているが、予算が少ない。もっと増やすよう要望した。積極的に出会いの場へ出席してもらうよう雰囲気作りをしていく。 |
| 105 | 小さい子ども達を守らなければならない、一人で歩いていると、非常に危険、どう守っていくか考えてほしい。 | 市当局へ文書で伝えました。 |
| 106 | 再生可能エネルギー、各学校でやっているが、メガソーラーの企業誘致をしてはどうか。 | 市では具体的なものはないが、メガソーラーについて県内では増えつつあるので、議会内で検討したい。 |
| 107 | 結婚する人が少ない、弔慰金はもらえるが、結婚祝い金というのを作っていただけないか。 | 婚姻率の増加、その後の出生率の増加などにつながることから、実現に向けて、市当局へ要望していきたい。 |
| 108 | 学校統合では、住民が声を出せるような懇談会を設置してほしい。 | 地域住民の理解や話し合いがなければ、進まない。住民の意向が100%。 |
| 109 | 学校統合の際は、安全、安心な熱エネルギー、メガソーラーを国や県と検討され、活用していただきたい。 | メガソーラー団地については、これから普及してくると思う。 |
| 110 | 空き家を、ふるさとへ帰ってきた人の滞在場所にできないか。 | 都会の人が、自由に使える場所があればいい。面白いと感じた。(市当局へも文書で伝えました。) |
| 111 | 米の反収を地域にあったものにしてほしい。大規模化が進めば、農家そのものはどうするか。 | 共済組合へ、基準反収を変えていただくよう話していただきたい。集落を維持していくようなスタイルを作って、共同していくのが基本と考える。 |
| 112 | 川口溪谷、車で行けない、どうするのか。 | 地域の議員間で協議し、市へ要望していく。 |
| 113 | 移動販売車が減っている。年間いくらかでもいいから、補助していただけないか。 | 南外でも話があり、今業者へお願いしてやっている。今後、何か解決策が出てくると思う。(市当局へも文書で伝えました。) |
| 114 | 空き家になることが、最初から分かっているのであれば、それにすぐ対応できる体制を考えていいのではないか。 | 空き家は、活用できる時点で動かないといけないと思う。活用に配慮することを考えてみたい。 |
| 115 | 若い人が、議会に興味をもってもらう工夫はできないか。 | 議会中継について、今、検討している。 |
| 116 | 地域スポーツクラブの助成金が少なくなった。財政面で厳しくなったので、支援をお願いしたい。 | 教育長へ伝えて、いくらかでも実現したい。(市当局へも文書で伝えました。) |
| 117 | 出産祝金や高校入学祝金等の制度をつくってもらえないか。 | <p>【出産祝金】一時的な給付では効果は薄く、出産を機に一定期間の継続的支援給付が実効的と考える。現在、市では、出産時だけでなく、子どもの健やかな成長を継続的に支援するため、様々な切り口で支援を行っている。(例：中学校卒業までの医療費負担分の支援、保育料等の支援、子どもの病気回復期間の一時預かり等)</p> <p>【高校入学祝金】現在、大仙市の高校進学率は99.7%である。高校2、3年生の授業料無償化も実施されていること、また、高校入学祝金となると、合格者に限定されることから、好ましくないものとする。</p> |
| 118 | 美郷町の人口減少問題プロジェクトチームこそ、本当の行政のあり方。一方、大仙市は地元酒乾杯条例を可決とある。これだけ差があるのかと。地元酒に対して、援助するのか。酒造組合から何かあったのか。 | 議会でも、美郷町のようないち早い対応を見習い、組織を作って向かっていかなければならないことを感じた。酒造会社や、農協から要請されてやったわけではない。 |
| 119 | 市として、若い人たちから意見を聞いたりするような催しを計画してやっているものか。 | 出会いの場は、市でもまち婚とかをやっているが、もっと工夫した形を提案していきたい。 |
| 120 | 地域の農業は地域で、集落で楽しく過ごすこととしている。子どもが参加する行事をすれば、大人も出る。地域のコミュニティを図ることが大事である。 | いろいろ事業をやるようだが、議員にも声をかけていただければ参加したい。農地・水の事業を使えるので、是非活用していただきたい。 |
| 121 | 地域の話を通した中で、実際の地域の人はどう思っているのか、地域の中で解決していく時代に入った。従来とは違った意思疎通を図る、もっともつながりをもてるものになっていかなければならないとの話があった。 | 地域力の低下、自治会の機能が落ち込んできている。地域コミュニティの再生として、自治防災組織が立ち上がっている。地域の高齢者等を守っていく、大きな力になっていると思う。 |
| 122 | 市政懇談会に若い人は誰も来ていない。開催時期、時間、検討の余地はないのか。職場訪問してもいいのではないか。 | 平成26年中に、若い人が集まる場を利用し、市政懇談会を開催するよう、検討する。 |
| 123 | 福田の道路、子どもと歩いていたが、トレーラーが横転しそうで、本当に危なかった。 | 地域の議員間で協議し、市へ要望していく。 |
| 124 | 集落排水が詰まって、マンホールがパンクした。下水道料金も上がっているので、原因を究明して、こういうことがないようにしてほしい。 | 過去に対応済である。(7・8年前) |
| 125 | 仙北地域独自のものが、なにかありましたら教えてください。 | 国民文化祭が行われる。放課後児童クラブ、通学路、ガードレールもやる。水道新設・支所の耐震工事も実施する。 |

太田地域
(43人)

仙北地域
(32人)



市民の声

20代のころはあまり関心のなかった市議会ですが、子どもを産み育てるようになってからは特に、子育ての環境や施策、教育のことなどに関心を持ち、同年代の議員さんが出ていることもあって、市議会にも関心を持つようになりました。

特に関心のある事項については傍聴したいと思うときもありませんが、仕事をしているため、なかなか傍聴する機会がありません。土日や夜間の開催なども考えてくれたらより傍聴者が増え、より議会を身近に感じて、関心を持つ人も増えるのではないでしょう

西仙北地域 30代女性

議長交際費 (7月1日~9月30日)

| 項目 | 件数 | 金額 |
|-------|-----|--------------|
| 予算額 | | 900,000円 |
| 支出済額 | 25件 | 190,338円 |
| 今回支出額 | 21件 | 215,520円 |
| 内訳 | 弔慰 | 1件 10,000円 |
| | 慶祝 | 10件 91,360円 |
| | 協賛 | 10件 114,160円 |
| 予算残額 | | 494,142円 |

決算特別委員会審査日程

- 11月10日(月) 全体会 (審査方法・日程等の確認・分科会審査)
- 11日(火) 分科会審査
- 12日(水) 分科会審査
- 13日(木) 分科会審査・事務調整
- 14日(金) 全体会 (分科会会長報告・全体審査)

12月定例会日程のお知らせ

- 11月28日(金) 本会議第1日 (市政報告・議案上程等)
- 12月8日(月) 本会議第2日 (一般質問)
- 9日(火) 本会議第3日 (一般質問、議案質疑、委員会付託)
- 10日(水)・11日(木) 常任委員会審査
- 17日(水) 本会議第4日 (委員長報告、質疑、討論、表決)

※現時点での予定であり、変更される場合があります。変更内容は随時、議会ホームページでご案内しています。

皆様の傍聴をお待ちしています。

大仙市の歴史巡り (南外地域)

榑岡城址



南外地域に残る史跡のうち、ひとときわ光彩を放つのが中世の城館の跡といわれ、標高50mの愛宕山の一角、古館山にある榑岡城址。この地は室町時代まで佐原氏の居城でしたが、長禄2年(1458年)小笠原氏(増田)が佐原氏を討って榑岡城に入り榑岡氏と称しました。以来角館の戸沢氏と婚姻関係を結びその重臣として勢力を持ち、对小野寺氏(横手)の前衛拠点として示威を張り、家康の天下統一により廃城となる慶長7年(1602年)まで144年にわたり続いたといわれています。

常泉寺の裏手に位置する榑岡城址は、背後は由利郡(亀田領)と境する出羽丘陵が連なり、前面は榑岡川が水壕の役割を果たす要害の地で面積3,500㎡の削平地です。城跡には本丸、二の丸、三の丸、馬場跡などがあり、深さ10mの堀をはじめ、土塁や浅壕の遺構を留めるなど当時の興隆ぶりがうかがわれます。(武藤祐悦氏 記)



【お問い合わせ】

南外支所 TEL 0187 (74) 2111

編集後記

今回の市議会だより編集の最中、日本列島はまたも自然の脅威にさらされました。火山灰と噴石による多くの犠牲者を出した御嶽山の爆発、猛烈な風雨が大都市を襲った台風18・19号。亡くなられた方々に心よりご冥福と、被災された方々にお見舞い申し上げます。

改めて、地震国・火山国・台風メツカの日本が、人命を守るための防災対策に、知恵と力を結集するよう願わずにいられません。

さて、市議会だよりも発行の都度、そのレイアウトや各種会議報告の記載に変化があるとお気づきの方もいらっしゃるのでは。編集ではシロウトの我々編集委員会は、議会の様子をできるだけありのままに、写真や絵を使って、読まれる議会報に努力しているつもりですが、まだまだ研究が必要というところでしょうか。

議会報編集委員会

- 委員長 茂木 隆
- 副委員長 細谷洋造
- 委員 後藤 健
- 委員 佐藤育男
- 委員 佐藤文子
- 委員 古谷武美
- 委員 本間輝男

(佐藤文子)